資料２

安曇野市景観計画の改定について

安曇野市の景観に関するアンケート結果にみるポイント

１．単純集計の結果にみるポイント

１）景観に対する関心や評価　　→資料１ p1 参照

（１）安曇野市の景観の魅力：問９

「とても魅力的」、「多少魅力的」が合わせて約８割５分と高い比率を示している。

（２）安曇野市の景観に対する関心度：問 11

「とても関心がある」、「多少関心がある」が合わせて８割５分以上の高い比率を示し、景観に対する関心の高さがうかがえる。

（３）安曇野市の景観のよいと思うところ：問 14

「山や山並みの眺望」が８割近くで、突出して比率が高い。

（４）お住まいの地区の景観の魅力：問 10

「とても魅力的」、「多少魅力的」の合計比率が６割５分以上で高い比率を示しているが、市全体の景観に対して感じる魅力よりは、やや低い傾向にある。

（５）お住まいの近くにできた建物の景観について：問 12

「とても気になる」、「多少気になる」は合わせて５割近く。他方、「あまり気にならない」、「全く気にならない」も４割弱と低い比率ではなく、身近な景観に対してあまり気にしていない人も一定数いることがわかる。

（６）お住まいの近くにできた建物の景観で気になること：問 13

最も比率が高かったのは「建物の高さ･規模」で約 54%、次いで「建物の色彩」が約 35%となっている。一方、「敷地内の緑化」は 17%程度に留まっている。

（７）この 10 年間における景観の変化：問 16

半数近くは「あまり変わらない」としており、少なくともこの 10 年間に景観が悪いほうに大きくシフトしたという傾向はみられない。ただ、「だいぶ良くなってきた」と「少しよくなってきた」の比率合計より、「少し悪くなってきた」と「かなり悪くなってきた」の比率合計のほうが 5.7 ポイントと有意にやや高い。

（８）安曇野市の景観を損ねていると感じているものは何か：問 15

「空き家や空き店舗」が４割近くで最も比率が高く、次いで「耕作放棄地」、「ごみのポイ捨てや不法投棄」、「電柱や電線」の順でいずれも２割以上。以下、「荒廃した森林」、「特定外来生物の繁殖･繁茂」と続き、景観計画の基準で直接コントロールの対象としていない要素や産業の課題が絡む要素が上位を占めている。逆に、景観計画の基準で直接コントロール対象としている住宅や住宅以外の建物の「立地場所･高さ･色彩･デザイン」の比率は比較的低く、太陽光発電施設も 15%程度となっている。

２）景観に対する施策や取り組みの認知度･満足度　　→資料１ p1 参照

（１）景観計画の認知度：問 17

「内容は知らないが聞いたことはある」の比率が最も高く約４割。「よく知っている」はごくわずかで、「ある程度知っている」を含めても３割弱。逆に「知らなかった」が３割以上いる。

（２）景観条例に基づく届出制度の認知度：問 18

景観計画の認知度よりさらに低く、７割近くが「知らなかった」と回答している。

（３）景観づくり住民協定の認知度：問 21

「知らなかった」が半数以上を占めている。

（４）記念樹配布事業の認知度：問 22、問 23

「知らなかった」が６割近くを占め、「制度を利用したことがある」は１割弱に留まる。他方「事業は知っていたが、利用したことはない」が３割以上いる。関連で、同事業の今後の継続性については、継続を望む声が６割近くを占めている。

（５）生垣設置･ブロック塀撤去費用の補助事業の認知度：問 24、問 25

「知らなかった」が６割以上を占め、「制度を利用したことがある」はごくわずかな比率となっている。他方「事業は知っていたが、利用したことはない」が４割近くいる。関連で、同事業の今後の継続性については、継続を望む声が６割以上を占めている。

３）その他今後の景観に対する施策や取り組みの方向性　→資料１ p1 参照

（１）景観計画の認知度：問 20

「重要」と「やや重要」の合計比率でみると、重要度の高いほうから「景観計画がガイドラインの周知」、「いまある景観資源を保つための施策」、「条例の適正な運用」、「住民参加による景観づくりの推進」、「景観づくりに貢献する活動団体への支援･育成」、「景観づくり活動の推進」の順となっている。

（２）景観づくりの基準について（項目別）：問 19

全体的に、「現状のままでよい」が最多の比率で、いずれの６割前後となっている。そのなかで「より厳しくすべき」の比率が高い方から並べると、「高さ･規模」、「色彩･照明」、「敷地の緑化」、「建物等の配置」、「携帯･意匠･材料」の順となる。

（３）景観を守り、育む取り組みの推進によって期待する効果：問 26

「安曇野市らしい景観に育っていくこと」が最多で５割超。次いで高かったのが「ごみの不法投棄や荒廃農地が減っていくこと」で４割弱。３番目は「今ある景観がそのまま守られていくこと」で、現状維持を望む声も３割程度を占めている。以下「生活環境や子育て環境が向上していくこと」、「景観に好ましくない建物や看板などが減少していくこと」がいずれも２割台と続く。

２．クロス集計の結果にみるポイント

１）居住地区（大字）による違い　　→資料１p2 参照、居住地区の区分：次ページ図参照

（１）安曇野市の景観の魅力：問９

「とても魅力的」と「多少魅力的」、「あまり魅力的だと感じない」と「全く魅力的だと感じない」の各比率をそれぞれ合計してみると、地区によっては母数が少ないため比率だけの単純比較はできないものの、「魅力的」の比率が比較的高いのは田沢、豊科光、烏川、明科光、七貴などでいずれも９割以上、逆に低いのは牧、温、三田、東川手、南陸郷などでこれら５地区は７割台で、この結果からすると、各地区での眺望景観の見やすさがこうした評価に影響を及ぼしている面が少なからずあると考えられる。

（２）お住まいの地区の景観の魅力：問 14

「とても魅力的」と「多少魅力的」、「あまり魅力的だと感じない」と「全く魅力的だと感じない」の各比率をそれぞれ合計してみると、（１）で「魅力的」の比率がとくに高かった５地区のうち田沢、烏川は、地区の景観に対しても「魅力的」の比率が高い。一方で、豊科光、明科光はその比率がさほど高くなく、七貴は全体平均を５ポイントも下回っている。全体的には明科地域の各地区で「魅力的」の比率が低い傾向がみられる。

（３）安曇野市の景観に対する関心度：問 11

「とても関心がある」と「多少関心がある」、「あまり関心がない」と「全く関心がない」の各比率をそれぞれ合計してみると、全体的にはいずれの地区も関心度は高いといえるが、小倉、三田、東川手あたりはそのなかではやや関心度が低い。

（４）お住まいの近くにできた建物の景観：問 12

「とても気になる」と「多少気になる」、「あまり気にならない」と「全く気にならない」の各比率をそれぞれ合計してみると、気になる程度は地区によるバラツキが大きい。南穂高、豊科光、穂高、牧、烏川などは「気になる」の比率が高い地区で、小倉、温、明盛、三田、中川手、東川手、南陸郷などは「気にならない」の比率が高い地区で、かつ、いずれの地区も「気になる」の比率も上回っている。

（５）この 10 年間における景観の変化：問 16

「だいぶ良くなってきた」と「少し良くなってきた」、「少し悪くなってきた」と「かなり悪くなってきた」の各比率をそれぞれ合計してみると、三田や南陸郷など、「良くなってきた」の比率が他地区よりもやや目立って高い地区もみられるが、逆に豊科光、牧、明科光など「悪くなってきた」の比率が他地区よりもやや目立って低い地区もある。

（６）安曇野市の景観を損ねていると感じている要素（景観阻害要素）：問 15

（５）で「悪くなってきた」の比率が他地区よりも高い豊科光では「空き家や空き店舗」、牧では「耕作放棄地」や「太陽光発電施設」、南陸郷では「荒廃した森林」や「耕作放棄地」の比率が、他地区よりも比率の高い要素となっている。

２）居住歴（安曇野市に生まれ育った人、県内からの移住者、県外からの移住者）による違い

→資料１p3 参照

（１）安曇野市の景観の魅力：問９

「とても魅力的だと感じる」の比率は、県外からの移住者が明らかに高い。一方で、市内で生まれ育った人と県内からの移住者との間にはこの比率で大きな差がない。また、「全く魅力的だと感じない」の比率も、県外からの移住者はゼロなのに対して、市内で生まれ育った人、県内からの移住者では、ごくわずかだが一定数いることがわかる。

（２）お住まいの地区の景観の魅力：問 14

地区の景観についての魅力の感じ方については、市内で生まれ育った人、県内からの移住者、県外からの移住者との間で大きな比率の差はなく、市全体の景観の魅力に比べて、身近な景観は評価が低い傾向がある。

（３）安曇野市の景観に対する関心度：問 11

県外からの移住者の「とても関心がある」の比率が際立って高く、市内に生まれ育った人や県内からの移住者に比べて関心度の高さが顕著である。また（１）と同様に、「全く関心がない」という人が市内で生まれ育った人と県内からの移住者にはごくわずかでも一定数いるのに対し、県外からの移住者ではゼロとなっている。

（４）お住まいの近くにできた建物の景観：問 12

「とても気になる」、「多少気になる」ともに、その比率は県外からの移住者が最も高く、「とても気になる」の比率は、市内に生まれ育った人、県内からの移住者の比率よりも 10 ポイント近く高い。逆に、「あまり気にならない」と「全く気にならない」の比率は、いずれも県外からの移住者が最も低い値となっている。

（５）安曇野市の景観を損ねていると感じている要素（景観阻害要素）：問 15

県外からの移住者が市の景観を損ねていると感じているものの第１位は「空き家や空き店舗」で、市内に生まれ育った人や県内からの移住者よりその比率は小さいものの同じ結果である。しかしながら、第２位以降はやや傾向が異なり、２番目に比率が高いのは「電線や電柱」（全体では第４位）。また、全体では第８位の「住宅以外の建物の立地場所･高さ･色彩･デザイン」が、「耕作放棄地」（全体では第２位）と同率で第４位となっている。その他、全体では相対的に比率の低い要素（「屋外広告物」や「駐車場や空き家、資材置き場」など）も、県外からの移住者では比率がやや高めに出ている。